

授業科目 地域看護学実習Ⅰ

【担当教員名】  島貴 秀樹	対象学年	3・4	対象学科	看護
	開講時期	前期（4年）・後期（3年）	必修選択	必修
	単位数	3	時間数	135
【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	○	○	○	○
【概要・一般目標：GI0】 地域で生活するあらゆる個人や家族、集団や地域を対象として、住民のニーズに応じた保健活動の実際を体験することにより、QOLの向上を目的とした健康づくり活動を実践する基礎的能力を養う。				
【学習目標】 1. 実習地域のアセスメントを実施し、地域特性や健康課題を考察する。 2. 地域における対象特性の理解と、保健事業やその法的根拠、および地域住民・多職種・関係機関との連携・協働する意義とその方法について理解する。 3. 地域保健活動の実際を知り、保健師の役割および地域保健活動の基盤となる理念や活用されている理論について学ぶ。				
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
	<p>1. 実習地域のアセスメントを実施し、地域特性や健康課題を考察する。</p> <p>(1) 既存資料により実習地域の概要をとらえる。</p> <p>(2) 地区踏査を行う。</p> <p>(3) 参加した保健事業の中で住民の方々の声などを聴く。</p> <p>(4) オリエンテーションで地域概況や地区特性、地域保健計画、保健事業計画の説明を受ける。</p> <p>(5) 上記(1)～(4)によって得た情報から地域アセスメントを実施し、地域特性や地域の顕在的および潜在的な健康課題を抽出する。</p> <p>2. 地域における対象特性の理解と、保健事業やその法的根拠、および地域住民・多職種・関係機関との連携・協働する意義とその方法について理解する。</p> <p>(1) 個人・家族を対象とした保健活動</p> <p>(2) 集団・地域を対象とした保健活動</p> <p>(3) 連携・協働・調整</p> <p>(4) 地域看護管理（健康危機管理含む）</p> <p>3. 地域保健活動の実際を知り、保健師の役割と必要な能力、域保健活動の基盤となる理念や活用されている理論について学ぶ。</p> <p>(1) 1.2. を通して、討議し、考察し、学びを整理・発展させる。</p>		1～3	実習 地域看護領域全教員で担当する
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	国民衛生の動向	厚生統計協会	厚生統計協会	2,400円
参考書	新版 保健師業務要覧	日本看護協会監修	日本看護協会出版会	2005・4,800円
その他の資料	地域看護学で活用したテキスト・配布資料の全て			
【評価方法】 出席状況、実習態度、実習内容（実習目標の到達度）、レポート（実習記録等を含む）		【履修上の留意点】 問題意識を持って、主体的に、積極的に実習に臨むこと。		